



校長の目 ～西小日々通信～

令和5年4月18日（火）



1・2時間目は、6年生を対象にした全国学力・学習状況調査が行われました。調査する教科は、国語と算数です。この調査の目的は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルと確立する。」とされています。よって、調査結果は、個人へのフィードバックのみならず、次の学習指導要領を策定するための基礎資料として活用されます。調査問題をみると、読解や記述の問題、筋道を立てた思考を問う問題等が年々増えてきています。つまり、これから求められる学力が調査問題に反映されていると見ることができます。日ごろの授業でも、ただ聞いて覚えるだけでなく、自分で気づき、考え、その考えを積極的に他者に伝えたり、他者の考えを聞いて自分の考えを見直したりする態度が必要になってきます。



1年生の算数は、数の基本的な概念形成から学習が始まります。教科書を見ると、最初の10ページは、ほとんど文字が書かれておらず、場面の絵だけで問題文はありません。これは、まだ文字を学習していないためで、授業では教科書や黒板等に示された絵図と担任の話し言葉で進んでいきます。本時は、算数ブロックを5個使って、5という数について学んでいました。算数ブロックを、どのような形に並べても、かずは5です。このことを操作を通して体験的に学んでいきました。



学習の導入段階で、数概念を構築することはとても重要です。言葉を換えれば、数でどんなことができるかを理解しなければなりません。1年生の学習内容で言うと、①個数を表せる、②大小を表せる、③順序を表せる、④計算ができる、が主な概念となります。

多目的室からにぎやかな声が聞こえてきたので、覗いてみたら、5年生が楽しそうにじゃんけんをしています。近くにいる子にたずねると、「セブンじゃんけんをやっています。」と教えてくれました。ルールは、じゃんけんをして、出した指の本数が7になったらハイタッチをするのだそうです。二人で7にするには、チョキとパーの組み合わせしかありませんが、3人以上でじゃんけんしたらちょっと難しくなってきます。うまく7を作れると、相手と心が通じ合ったように思えて、盛り上がりやすいです。年度はじめに学級の間人関係を円滑にするための面白い取り組みですね。子供たちに誘われて、私も一緒にセブンじゃんけんを楽しみました。

